



沼中だより

学校教育目標：「個」・「心」・「力」

7月号

2025年7月18日発行

逗子市立沼間中学校

校長 熊谷 啓明

<校長先生より>

いよいよ夏休みが始まります。楽しみにしていた人も多いと思いますが、ただ何となく過ごしてしまうと、あっという間に終わってしまいます。長い休みだからこそ、自分の過ごし方がそのまま自分の成長につながります。この機会に、いつもとは違うことに挑戦し、視野を広げてほしいと思います。

◆ 規則正しい生活を心がけよう

夏休み中は、生活のリズムが崩れやすくなります。昼夜逆転の生活になると、体だけでなく心も不安定になります。毎日決まった時間に起き、適度に体を動かし、バランスの取れた食事と十分な睡眠をとるようにしましょう。熱中症にも十分注意してください。

◆ 沼間中学校は宿題を出しません

本校では、今年も原則、夏休みの宿題を出しません。その理由については、昨年度の「学校だより」に記載しておりますので、学校ホームページをご覧ください（右下のQRコードをご利用ください）。



学校 HP

もちろん、だからといって「何もしなくていい」ということではありません。長い休みをゲームやスマホばかりに使ってしまうのは、本当にもったいないことです。読書をしたり、興味のあることを深掘りしたり、自分のための時間として活用してください。

◆ 夏は学び直しと挑戦のチャンス

夏休みは、自分のペースで学習に取り組める貴重な時間です。教科書やノート、プリント、副教材を見直し、これまでの学習をしっかり復習しましょう。苦手教科は克服に、得意教科はさらに深める学習に取り組んでください。

特に3年生のみなさんにとって、この夏は高校受験に向けた大切な時期です。悔いを残さないよう、しっかりと準備を進めましょう。勉強のやり方がわからない、計画の立て方に悩んでいる、何から始めればいいのかわからない…そんなときは、遠慮なく沼中の先生たちに相談してください。

また、夏休みの後半（8月20日〈水〉～28日〈木〉の土日を除く午前中）には、沼間中学校の図書室を開放します。涼しく静かな場所で読書や勉強をしたい人、生活のリズムを整えたい人は、ぜひ活用してください。詳しくは、すでに配布したお便りやチラシをご覧ください。なお、このチラシは2年生の水木絢菜さんが作成してくれました。こちらにも注目してみてください。

◆ 外に出て、本物にふれよう

映画館、美術館、博物館、資料館など、実際に足を運ぶことで得られる学びはたくさんあります。ぜひ、ご家族や友人と出かけて、心に残る体験をしてください。

また、前回の沼中だよりにも書きましたが、今回の参議院選挙にも注目してみましょう。政治に関心をも

つことは、自分たちの未来を考えることにつながります。ご家庭でも、選挙や社会について話す機会をもってみてください。

ちなみに、私はこの夏、広島を訪れ、平和について改めて考えてこようと思っています。みなさんも、心に残る体験や学びがあれば、ぜひ夏休み明けに校長室まで話しに来てください。楽しみにしています。

どうか安全で健康に、そして有意義な夏休みを過ごしてください。夏休み明け、また元気に会いましょう。

<各学年より>

〇1学年

逗子しらべ ～地域理解の学び～

7月15日（火）5，6時間目の総合的な学習の時間で、1学年では、地域の皆さまと連携した授業を設けました。今回のテーマは「逗子市の各事業所から見た魅力とその仕事について知る」です。

この授業では、コロワイドさん、SUZUKIYAさん、そして逗子市役所の防災安全課と経済観光課の皆さんをお招きし、4つのブースに分かれて、それぞれの分野について発表していただきました。皆さんは、自分たちの仕事や事業の魅力について説明してくださり、生徒たちは多くの質問をすることで、逗子市についての理解を深めることができました。

特に、コロワイドさんからは花火大会にまつわるお話、SUZUKIYAさんは1902年創業からの歴史、防災安全課の方々からは防災について、経済観光課の方々からは地域の観光や経済の取り組みについてお話を伺い、地域の特色や役割について学びました。

参加した生徒たちは、積極的に質問を行い、自分たちの住む街について新たな発見をすることができました。この経験を通じて、地域の人々と交流し、地域の一員としての意識も高まりました。

今後も、地域の方々と連携しながら、学びを深めていきたいと思います。



*夏休みに入るにあたっての学年からのお知らせに関しては、
7月16日(木)配付の学年通信「1スター★」をご覧ください。

1学年代表 平元 遼一

〇2学年

4月からスタートした「自己探求」の学習も、一区切りを迎えました。これまで自分と向き合ってきた時間の集大成として、各クラスの代表者3名、計6名が、学年全体の前で発表をしてくれました。

発表のテーマは実に多彩で、アンガーマネジメント、好きな音楽、宇宙人、自分の飼っている珍しいペット、好きなアイスなど、それぞれの個性や興味があふれる内容でした。そして最後の発表では、「メンタルを強くする方法」について語ってくれました。「悩んでいる自分のような人の役に立ちたい」という思いから探求を始めたという話には、多くの生徒が心を動かされたようです。

「うまくやろうとしなくていい」「何度もつまずきながら成長する過程には、人に見えない裏側がある」——そんな年代の仲間から語られた言葉には、大きな意味がありました。

それぞれが選んだテーマを通して、自分自身と向き合い、仲間の考えに耳を傾けるこの時間は、まさにかけがえのないひとときでした。これからもこうした温かな学びの時間を大切にしながら、互いの成長を支え合っていきたいと思います。

2学年代表 清水 理紗

〇3学年

4・5・6月で生徒総会、修学旅行、体育祭と3年生にとっての大きな行事が終わり、いよいよ自分たちの進路に向けて始動しました。37期生は、今年の2月に三浦学苑訪問、4月に横須賀総合・湘南学院の先生をお招きした進路学習会、6月に逗子葉山高校訪問と様々な校種について「まずは知る」を目的に総合的な学習を行いました。

三浦学苑高等学校：普通科、工業技術科

横須賀総合高等学校：総合学科

湘南学院高等学校：私立の普通科

逗子葉山高等学校：公立の普通科

そして7月15日（火）に専門学科のある神奈川県唯一の水産系の高校である海洋科学高校の先生と生徒さんをお招きし、先生からの水産高校の概要説明と、4つの学科それぞれの生徒さんによる具体的な“何を学ぶのか”の説明を受けました。

船舶運航科：2ヶ月の遠洋航海でマグロなどの漁業実習を行うなど、船舶の運航に必要な航海・機関を学ぶ

水産食品科：缶詰加工や販売、開発を行うなど安心安全な食に必要な製造・管理方法を学ぶ

無線技術科：ドローンやアマチュア無線など無線従事者を目指した知識・技術を学ぶ

生物環境科：ヒラメやナマコ、アワビなどを卵から養殖をし、種苗生産・沿岸漁業・環境について学ぶ

どの科も高校卒業後から“働く”を意識した専門的な学びがあることを知ることができました。専門学科ということで、その後の進路が狭くなってしまうのでは？という不安がある人もいたかもしれませんが、そんなことはなく多くの資格を取りやすい環境があり、多くの可能性が生まれるとお話をいただきました。むしろ資格があることで、1000社の企業が、資格ある人材を求めて海洋科学の生徒さんを求めに来るぐらいだそうです。

たくさんの方の協力あって、多くの校種について体験的・視覚的に知ることができました。37期生のみなさん、ここからが真剣勝負です。自分のしたいこととイメージのあった校種を選び、自分の道を自分の力で切り開いていってくださることを期待しています。

3学年代表 山田 智昭

